

塾長の独り言 NO 108 H 20. 10. 23

「恐慌前夜」

副島隆彦氏の「恐慌前夜」という本を読みました。

今週の20日(月曜日)に千葉経営研修会の勉強会に行った際に、経営者として尊敬している市川さん(鋭い感性で見抜かれているような感じがしているのは私だけでしょうか？あは！)から副島さんの著書の話があったので、さっそく昨日買って読んでみました。

平成20年9月15日初版「恐慌前夜」 アメリカと心中する日本経済

「恐慌前夜(単行本)」のURLはこちら=>

http://www.amazon.co.jp/gp/aw/d.html/ref=aw_mp_1/?a=4396613148%26uid

私の感想です。

マスメディアが情報発信していないことなどが書いております。

新聞・テレビなどの報道機関の情報は操作されているという現実をどれだけの日本人は知っているのか？ 情報は報道する側の「ある意図」の基に発信されているのです。

経営者、資産家には、是非とも読んでおくべき著書ですね。

サブプライム問題の本質が見えます。

アメリカ経済の深刻さが理解できます。

そして・・・日本の行く末も・・・

しかし 判断・決断するのは・・・「あなた次第」です。自己責任の世界です。

下記が目次です。興味あるショッキングなテーマが満載です。

- 1章 アメリカと心中する日本経済
- 2章 「金融工学」の罠
- 3章 「格付け」と「会計基準」の虚妄
- 4章 恐慌への道のり
- 5章 恐るべき統制経済
- 6章 恐慌に立ち向かう日本

歴史を振り返ると、1985年プラザ合意にて日本がアメリカの資本主義経済を救ったのです。

そしてソ連社会主義が崩壊して、ドル本位経済にて現在まで膨張してきたが・・・もう限界が来た！

20世紀のビジネスモデル、そして米ドル支配の崩壊、乱世の大変革

<コメント>

世界大恐慌、どこまで行くのか？

世界株価、同時株安の進行。アメリカドル全面安。円高ドル安。

この流れは、これから2年間・・・続くと予想しております。

情報、それ自体にはなにも価値はありません。

その情報をいかに活用するか？ 活用するには知恵という座標軸が必要になるのです。

その座標軸を確立するために「哲学・思想」がその人の考え方のバックボーンになるのです。

判断・決断するには・・・「哲学・思想」が必要になるんですね！